

白水小学校木曽川雪交流が2月5日に行われました。名古屋の水源地の一つである長野県木祖村から40tの雪を運び、早朝5時から校庭に雪のコースを作り、子どもたちはそりで滑ったり、雪遊びをしたりと、雪体験をしました。この取り組みは、生きていくために欠かせない貴重な水の大切さと、その水がどこから流れてくるかを知ってほしいとの思いで、地域の企業であるスミ設備が木祖村と協力して、16年前から取り組んでいるものです。



▲重機を使い、運ばれた雪でコースを作ります。階段をつけたり、補強したり、重労働です。

全校生徒でお話を 聞き感謝を伝える



▲全校生徒がスミ設備の驚見代表や木祖村の奥原村長のお話を聞きました。木祖村の雪が水道水になるという自然のつながりと、環境について考える機会にしてほしいと話されました。

1年と6年がペアで 初すべり



▲1年と6年、2年と4年、3年と5年がペアになり、それぞれ45分間ずつ雪を楽しみました。初めはおっかなびっくりでしたが、だんだん慣れて、そりのスピードが速くなる生徒もいて、先生方はハラハラしながら見守っていました。

雪遊びも体験



▲そりの順番を待つあいだ、雪遊びを楽しみました。水分を含む雪は思ったより硬く、雪だるまをつくるのが難しいと言っていました。雪合戦も、雪が硬いたためできませんでしたが、雪の冷たさを感じたり、溶かして水になることを確かめたりしていました。

参加者の声

- ・ずっと中止だったので、6年生は今年が最初で最後。でも体験できることがとてもうれしい。
- ・雪に触れる機会はなかなかないので、親子ともにとても楽しみにしていました。スミ設備さんのお陰です。とても感謝しています。

主催者の声

- ・雪交流は、スミ設備さまのご尽力により、白水小学校だけができる体験です。みんなの飲んでいる水がどこから来るのか、しっかり勉強につなげていってほしいですね。
- ・体験の格差が子どもたちの間で進んでいます。地域の協力により、学校の行事として体験できることに意味があると思います。これからも協力していきたいです。